

a
r
c
a
d
i
a



A
GARDEN
OF
EDEN.

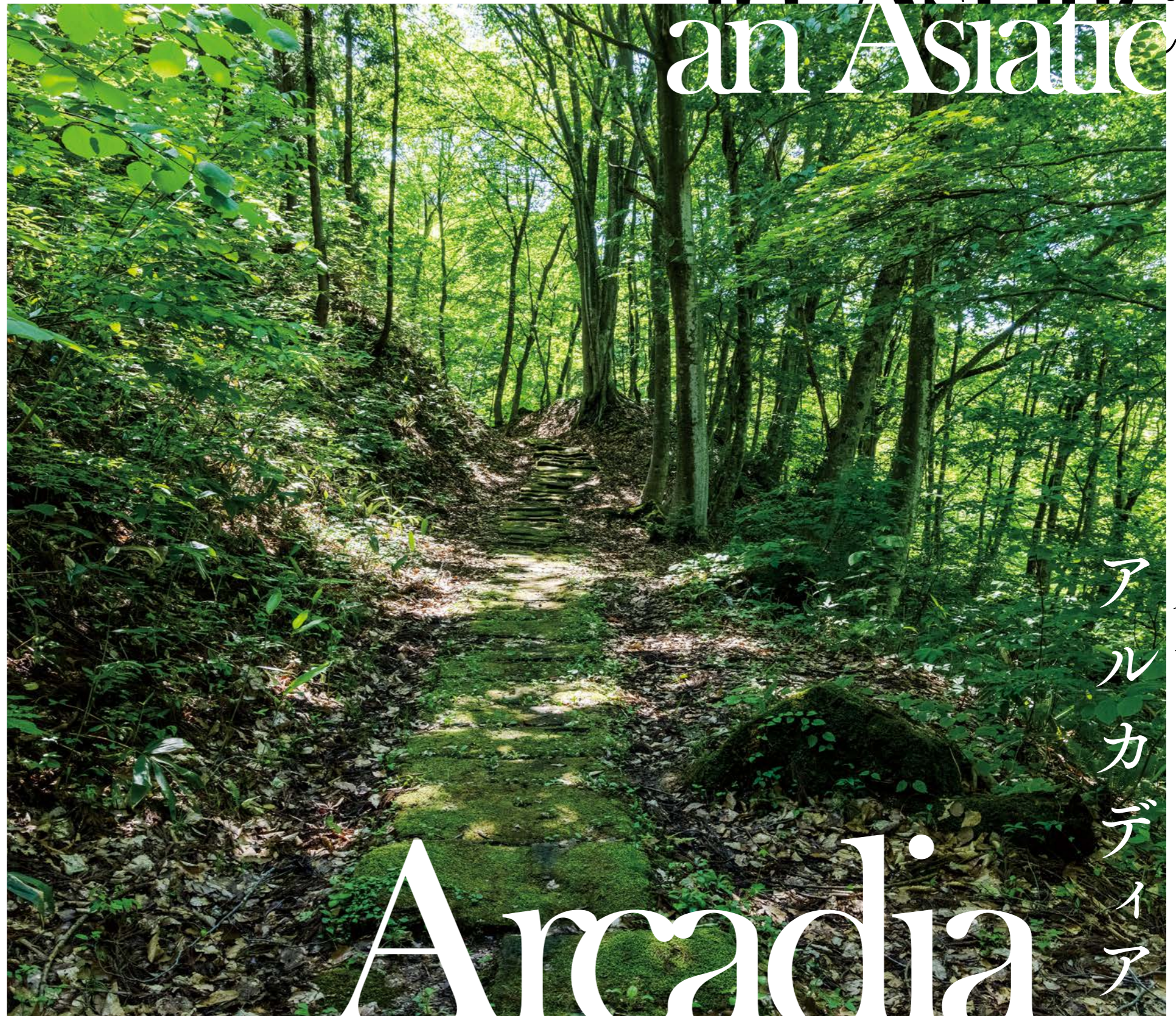
a smiling and plenteous land,
an Asiatic
an Asiatic

イザベラ・バードと
東洋の

アルカディア

Arcadia,
prosperous and independent,

UNBEATEN TRACKS IN JAPAN By ISABELLA L. BIRD



2019年2月に長井市、南陽市、白鷹町、飯豊町の2市2町で設立した「やまがたアルカディア観光局」は、2021年4月から小国町が参画し、新たなスタートを切るようになりました。
同じ置賜地域でありながら、まだまだ知らないことが多い小国町。
小国町の人や自然に出会う度に、こんなに素晴らしいところがあったのかと感動します。
小国町も加わり、季刊誌arcadiaはますます地域の魅力を深掘りして地域の皆さんにお伝えできるよう、取り組んでいきたいと思えます。
皆さんも季刊誌で取り上げてほしい特集などがありましたら、ぜひご提案ください。
この季刊誌を通して、実は知らない、近くて遠い自分たちの住む「アルカディア」の魅力を感じていただけたら幸いです。

季刊誌「arcadia」編集部

CONTENTS

- 02 特集1 イザベラ・バード
十三峠を越えて
見つけたアルカディア
- 08 特集2 小国町のマタギ
山神様を祀り
授かり生きる世界
- 14 より大きな連携を
動きだす小国町の観光事業
やまがたアルカディア観光局
- 16 小国町の観光・宿泊施設
マタギや木工文化を伝える店を紹介
- 18 2市3町フォトスポットマップ
ファインダー越しに見る
東洋のアルカディア

Cover STORY

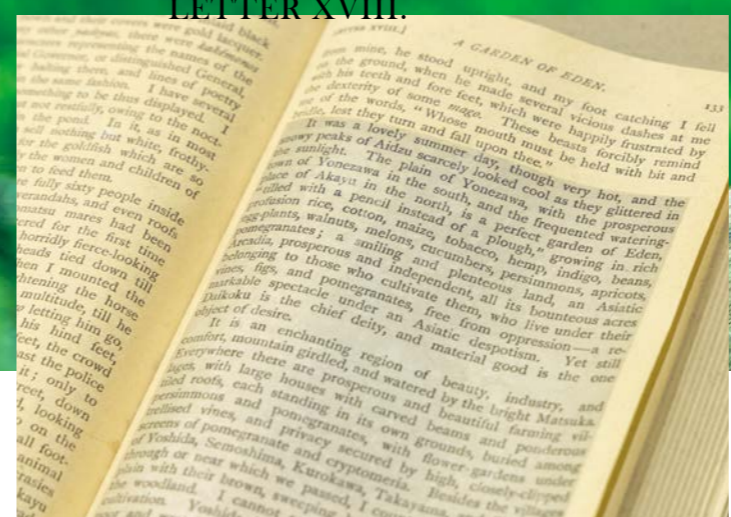
先人が営みの中から紡ぎ伝えてきた蔓細工に
人々が辿った軌跡を重ね、伝統の奥深さを感じる。



未知の世界へ

踏み出し

アルカディアに出会う



all its bounteous acres belonging to those who cultivate them, who live under their vines, figs, and pomegranates, free from oppression

ISABELLA L. BIRD BIOGRAPHY

- 1831 10月15日、イギリス北部ヨークシャー、バラブリッジで牧師の長女として誕生。
- 1854 カナダ、アメリカを旅行し、2年後に『The Englishwoman in America (英国女性から見たアメリカ)』出版。
- 1872 オーストラリア、ニュージーランドに向かい本格的に旅をはじめ。
- 1878 初来日し北日本を旅行。2年後に『Unbeaten Tracks in Japan (日本奥地紀行)』出版。
- 1891 王立地理学協会特別会員となる。
- 1904 10月、誕生日を目の前に72歳で病没。

P04:「ハイジアパーク南陽」(今年3月閉館)に展示されていた、イザベラ・バードの肖像画や衣装、『Unbeaten Tracks in Japan』。
P05: モデル/ディーン・セーラ (長井市国際交流員)

イザベラ・バードとは1878(明治11)年の7月、ひとりの英国女性が置賜地域を旅している。彼女の名前はイザベラ・バード(Isabella L. Bird)。イギリス、ヨークシャー州の牧師の長女として生まれ、英国国教会の高位聖職者を輩出している知識階級の家系の中で育った人物である。聖職者である父親は教会を移ることが多く一家は居住地を転々としていたが、多くの土地に移り住んだことで彼女は地理や歴史を自分の頭で考え、ものごとを観察する力を育てていった。美しい田園で乗馬に親しみ、宗教的空気の中で教育を受けた彼女は、11歳の頃に教会の日曜学校で教えていたという。

幼少期は健康に恵まれず、脊椎の病気を患っていた。手術後の健康回復の手段として航海を医者に勧められ、23歳のときにアメリカとカナダを訪問それが契機となり、40代になるとオーストラリア、ニュージーランド、ハワイ諸島など世界各地を訪ねては紀行文を出版する女性旅行者となった。当初は、宗教や貿易、統治政治についての内容が多かったが、次第に探検的要素が強くなり、キラウエア火山の登山や、

ロッキー山脈の山越えにも挑んでいる。その後訪れた日本では、ガイドの若者伊藤鶴吉ひとりを伴い内陸の奥地を通り北海道のアイヌ村を目指した。それは実質的に女性の一人旅と言えそうなもので、「ヴィクトリアン・レディ・トラベラー」と呼ばれる女性旅行家たちの中でも際立った存在である。

近代化されていない日本の「奥地」へ

訪日を決める前、バードは南米アングラスへの旅行を考えていた。しかし、相談した自然科学者のチャールズ・ダーウィンの後押しや、ハリースミス・パークス駐日英国大使の協力があり、日本行きを決定。旅の記録は日記に細かく書き留め、妹や友人への手紙として送り、帰国後に回収してまとめていくという手法をとっている。旅の2年後にイギリスで刊行された『Unbeaten Tracks in Japan』、1973年に高梨健吉(川西町出身)の翻訳で出版された『日本奥地紀行』には、文明開花から間もない日本の「奥地」で彼女が見た人々の姿、暮らし、自然の景観が、生き生きとした筆致で描かれている。

やまがたアルカディア観光局_お知らせ

自分らしい価値観に出会う映像の旅。

「やまがたアルカディア観光局 presents ライク・ア・バード okitama」始動

旅のその先へ。イザベラ・バードのように、軽やかな1羽の鳥のように。

19世紀末、明治初期の日本にひとりの英国人女性旅行作家が訪れました。彼女の名前はイザベラ・バード。海外旅行が一般的ではなく、女性の自由が今より遥かに制限された時代にもかかわらず、軽やかにしなやかに世界中を飛び回った女性でした。その道中を記録した『日本奥地紀行』の中で「東洋のアルカディア(桃源郷)」と称賛された山形県・置賜地方を舞台に、「現代のイザベラ・バード」と呼びたくなるような、新しいライフスタイルをあゆむ女性たちが旅します。これから1年間、四季の移ろいととも、置賜地方の2市2町を訪れ、旅の様子を収めた短編動画4篇をやまがたアルカディア観光局のWebサイトやSNSで公開していきます。ソトコトオンラインでも旅の行程を追ったレポート記事を掲載。

- 第1弾 写真家・中川正子さんと訪ねる、雪解けを待つ白鷹町
- 第2弾 建築家・成瀬友梨さんと訪ねる、新緑が芽吹く飯豊町
- 第3弾 グランドレベル・田中元子さんと訪ねる、暑さ忘れる長井市
- 第4弾 メディアアーティスト・市原えつこさんと訪ねる、紅葉舞う南陽市

いよいよ第一弾の動画が公開。

【第1弾】「写真家・中川正子さんと訪ねる、雪解けを待つ白鷹町」

日本百名山に数えられる朝日山系を中心とした山々に囲まれ、山形県の無形文化財に指定されている深山和紙や白鷹紬といった伝統工芸が脈々と継承される白鷹町。

なにげない日常を独自の感性で切り取る写真家・中川正子さんが、生活の中に伝統が息づく白鷹町を訪れます。岡山に拠点移して日々を丁寧に過ごす中川さん。カメラのレンズを通じて、現地の人・文化・自然と対話していきます。



【動画】

<https://www.youtube.com/watch?v=hCXdB2nNrh0>



【記事】

「ライク・ア・バード okitama」第1弾 写真家の中川正子さんと訪ねる、雪解けを待つ白鷹町(ソトコトオンライン)
<https://sotokoto-online.jp/5985>



【プロジェクトの概要についてはこちらからご覧ください。】

自分らしい価値観に出会う映像の旅。「ライク・ア・バード okitama」が始まります!(ソトコトオンライン)
<https://sotokoto-online.jp/4962>



【旅人が出会ったアルカディアエリアの現地の人に出会える「関係案内所」を開設いたします。】

関係案内所とは、観光案内所をもじった造語です。ここでは、観光スポットを「関係スポット」に、観光ツアーを「関係ツアー」に置き換え、従来型の観光旅行ではなく、人と人との「縁」に紐づく、新しい旅のカタチを提案してまいります。

今後リアルな「関係ツアー」に加えて、「オンライン関係ツアー」なども随時企画していく予定です。

あなたの旅に、あなたの人生を彩る素敵な出会いが、たくさん訪れますように。

<https://arcadia-kankei.jp/>



主催：一般社団法人やまがたアルカディア観光局

企画運営：株式会社 sotokoto online / グッドアイデア株式会社 映像制作：吉野敏充デザイン事務所

スタッフ

総合監修・ナビゲーター：指出一正(株式会社 sotokoto online) 映像プロデューサー：松田朋春(グッドアイデア株式会社)

ディレクター：市川靖子(株式会社いろい) クリエイティブディレクター：吉野敏充(吉野敏充デザイン事務所)

映像ディレクター&エディター：渡辺 然 ビデオグラファー：布施 果歩・佐藤 鈴華 ライター：小嶋可那子



ARCADIA ROAD

山形でのイザベラ・バードのルート



微笑する大地

実り豊かに

— a remarkable spectacle under an Asiatic despotism.

置賜地域に見た
美しい桃源郷

1878(明治11)年5月、横浜に降り立ったバードは、北関東、会津、新潟から山形に入り、秋田、青森、北海道に向かった。新潟県関川村から山形県小国町玉川に足を踏み入れたのは7月12日。約70kmの越後米沢街道には13の峠があり、新潟側から鷹巣、大里、萱野、朴ノ木、高鼻、貝淵、黒沢、桜、オノ頭、大久保、宇津、諏訪の「十三峠」と呼ばれた。標高は低いものの急峻で幅が狭く、鷹巣、榎峠について「よろけながら上り、滑りながら下りて」過ごしたとバードは記述している。大里峠を越え黒沢で一泊しようと考えていたが、泊まれる宿がなかったことから、降雨と暗がりのなか市野々まで進んでいる。黒沢峠は、ブナ林と苔むした敷石が頂上まで続く美しい峠だが、残念ながらバードの目には映らなかったようだ。市野々では「きのう旅した道のりは12時間かかって18マイル(約28.8キロ)！」と、旅路の過酷さを伝えているが、いちばんの難所と思われる宇津峠ではそのような記載はない。頂上から陽光を浴びながら見た置賜盆地の光景を「日本の花園のひとつ」と

描写。連日の雨が上がり、峠を越えた晴れやかな心情が伝わるようである。その後、バードは川西町小松で2泊し、15日に南陽市赤湯、上市市に到着。そこで改めて、置賜盆地を「実り豊かに微笑する大地であり、アジアのアルカディア(桃源郷)である」と称賛するのである。今、私たちは彼女が見た光景を見ることはできない。だが、彼女の旅を通してこの地域の歴史や文化、自然環境を学ぶことはできる。そして地図を広げ、地図に載っていない道さえも歩き出す、逞しい生き方を見出すこともできるのではないだろうか。

P06：バードが歩いた黒沢峠の敷石と、十三峠の整備・案内を行っている「NPO法人ここ掘れ和ん話ん探検隊」の岡村俊春氏。

参考文献／

イザベラ・バード『日本奥地紀行』高梨健吉訳 平凡社
イザベラ・バード『イザベラ・バードの日本紀行(上)』時岡敬子訳 講談社学術文庫
渋谷光夫『イザベラ・バードの山形路』無名舎出版
赤坂憲雄『イザベラ・バードの東北紀行 会津・置賜編』平凡社
保科勝見『十三峠とイザベラ・バード』

Special feature 2

マタギ

自然と生きる
山の民
その伝統文化

小国町に伝わるマタギ文化

小国町は、町の北側に朝日連峰、南西部に飯豊連峰という、雄大な山々に抱かれた町である。面積の9割は森林で、そのうち8割は原始景観を残すブナの森が覆っている。ゆっくりと成長し、大きく枝葉を伸ばす天然広葉樹林は美しく、白いブナの幹と豪雪地帯である雪のイメージから、小国の森は「白い森」と呼ばれている。長い歴史の中、自然の中で生きてきた人々の間には狩猟や採集を生業とするマタギ文化があり、朝日連峰南麓にある五味沢と金目、飯豊連峰北麓に位置する小玉川地区には、今もその伝統が残っている。

小国町マタギの起源は定かではないが、小玉川地区で11代続くマタギの家系である本間義人さんの家には、米沢藩の時代に鉄砲による狩猟許可が降りた、という

ことが伝わっている。長ければ400年以上前からマタギは存在していたと思われる。そして、東北地区を広く活動の場にしてきた秋田県仙北地方阿仁地区の「阿仁マタギ」がこの地を訪れ、発達した狩猟技術を伝授したという。マタギの家系、または集落の長には秘伝の巻物が代々伝えられており、その伝承の有無がマタギの正統性を示すものだと考えられている。

狩猟法とマタギ言葉

縄文時代から弥生時代にかけて農耕が始まると、平地地域では原始的な狩猟生活はなくなったが、山地地域は自然の恵みが豊かなため、狩猟と採集による生活の仕方が残った。小国町の山地地域でも、人は里に住み農業をしながら農閑期である冬季と春先に狩猟を行うようになっていく。狩るのはツキノワグマ、猟法は主に集団で行う巻狩^{まきがり}。全体を見て指揮する「ムカダニ」、クマを追い立てる「セコ」、鉄砲で撃つ「ブツバ」などの役割があり、10人前後で行うことが多い。しかし地域のマタギが減少し、他に仕事をしている人が多い現在は、5人ほどの少人数で行くこともある。

マタギには山でだけ使うマタギ言葉があり、血を「マカ・アカ」、仕留めたときには「サキノツタ」、解体するときには「サナデル」、山で離れた場所にいる人がおおよそ同じ高度にいるときは「タイゴウ」などと表現する。地域により表現も由来も異なるが、里ではマタギ言葉を使わない、ということは共通している。これは山神が里の穢れを嫌うため、山に里の言葉を持ち込まないようにするためと言われる。



→ 先輩からの教えは落ち着いて撃て、だけ」という本間義人さん ← 本間さんが初めて仕留めた熊の毛皮 ← 鋭い爪も骨も熊の部位はすべて使う



M A P

インタビューした場所

越後屋 〒999-1522 山形県西置賜郡小国町
小玉川456 Tel/0238-64-2430
※お店の詳細はP16へ



←急斜面を駆け降りるときにバランスを取るナメ棒



←小玉川のマタギ、横山隆蔵さん宅の居間に飾られた狩猟の記憶

I N F O R M A T I O N

ブナの森リトリートツアー

～森の中で日常を離れ、心身からリフレッシュできるひと時を～

開催時期：6月～10月頃

森林セラピー基地ブナの森温身平は、飯豊連峰のふもと、
山形県小国町に広がる原生的なブナの森。
ここは、実験により森林の癒し効果が科学的に認められている、
山形県内唯一の「森林セラピー基地」です。



温身の池



天狗橋より

●癒しの森温身平で森林セラピー体験

森林セラピーとは科学的に認められた森林浴効果のことで、森を楽しみながら、こころと身体の健康維持を目指すものです。温身平には樹齢200年を超えるブナの樹々やヤチダモの巨木、玉川の清流沿いを通る遊歩道が整備されていて、どの遊歩道もなだらかで歩きやすく、体力に自信のない方でも安心して森林浴をお楽しみいただけます。

●森林セラピー基地でヨガ体験

森林ヨガでこの癒しの森のエネルギーを身体にとりこんでみませんか？
ヨガインストラクターの指導で、リラックス系のポーズを取り入れながら、初心者でも無理なく体験していただけます。森林セラピーアテンダントが案内する温身平セラピーロード散策と、森林ヨガ体験を組み合わせた1日コースがおすすめです。



詳しくは、やまがたアルカディア観光局へお問合せください。



すべては
山神様からの
授かりもの



→熊の陰差には骨がある

→実際に使っている山刀と、命中したライフルの弾



山神は女性神だとされ、マタギは山に入る1週間ほど前から女性との関わりを断ち、山に入れば女性の話も名前すら口に出さない。昔はおむすびすら自分で握る人もいるほど厳格だったが、現在は女性の入山規制はない。禁忌とされるのは、口笛や歌など気を散らす行為である。マタギが行くのは綺麗に整備された登山道ではなく、滑落すれば命を落とす危険性がある山道で斜度33度の急斜面を登っていくこともある。山という神域に足を踏み入れるとき、マタギは自然への畏敬の念を表し、山神が宿るとされる三叉の木に手を合わせ、安全と豊猟を願う。

宗教的儀礼と分け前

仕留めた熊は、皮を剥ぎ、解体する。尻尾だけを残して剥いた毛皮を持ち「センビキトモビキ」と唱えながら肉体の上で上下させる(金目)、剥いた毛皮を肉体に着せる(北部)、皮を剥いて肉体を別の場所に移すときに皮でお尻を2度もしくは3度叩く(小玉川)。その他、獲った場所の上流に向けて、頭と心臓をお供えし、山神様にいただいたものの報告をする。心臓を十字(小玉川)、十二(金目)と切る、という儀式がある。昔からの教えに従い、これらの儀式を行うのがマタギと狩猟者

の明確な違いでもある。狩猟者の中には、欲しい肉だけを切り他の部位を捨てていく人もいう。マタギは、腸の中身以外のものを全てを持ち帰り、食料、衣料、薬に使う。そして、年齢や役割に関係なく、関わったすべての人に等しく分ける。狩りに参加できなかった人がきても、荷物持ちだけでも、取材同行者であったとしても、同じ量の分け前が与えられるのだ。
自然の恵みに依存し、ときに対峙し、共に生きてきた彼らにとって、これらは当たり前共有している世界だ。熊だけでなく山菜もキノコも「山神様から授けていたのだ」という考え方が、ゆるがない精神的支柱になっている。



小国町指定文化財(彫刻第7号) 大宮神社の狛犬

まとまると 置賜地域は もっとおもしろい



渡邊拓磨氏

(一社)やまがたアルカディア観光局
専門部会メンバー

待ち望んだ、小国町がアルカディア地域へ 農業・商業・工業が連携した地域づくりを

2021年4月より、やまがたアルカディア観光局(以下、アルカディア観光局)に小国町が参入した。専門部会のメンバーに加わったのは「農事組合法人 小国きんたけ工房」の代表理事を務め、キノコの生産・加工・販売の菌床製造を手がけるとともに、幅広い事業者を対象にキノコの生産指導も行っている渡邊拓磨さん。町の特産、人とのつながりを生かした企画や人の動きが、置賜全域に波及していくことを確信している。

— 小国町の参入についてどのように捉えていますか？

「やっとなら参加できる！」という思いです。これまで自分たちが考えたことをブラッシュアップして、アルカディア観光局の動きに乗せていけば、間違いなく一気に進むだろうと思いましたが、専門部会のメンバーになったのは、町内の起業家と、コロナ禍で宙に浮いていたインバウンド企画を町内外向けにやろうという話をしていたところ、役場の方に「それ、アルカディア観光局でできるんじゃないか」と言われたのがきっかけです。

— どのようなことを企画していますか？

うちの工房でキノコの採り放題をして、バーベキューをして、お土産に短角牛のソーセージなどを道の駅に買いに行くプランがあります。工場見学もしてポリウレタンのあるプランにしたり、参加者が選んで組み合わせられるプランを増やしていくところです。

この秋に「小国マルチワーク事業協同組合」が立ち上がるのに伴い、2泊3日から1ヶ月の簡易版「マルチワークツアー」を企画しています。小国町の農業や工業に従事しているいろいろな体験ができるツアーです。私が今手がけているのは、マルチワークで雇用した方の福利厚生を整備し、年収を確保して働いていけるシステムづくり。これは小国町内だけでなくかとうという話ではなく、今後、置賜地域内で横に広がっていく活動だと思っています。

— アルカディア観光局に期待することは？

観光局には、さまざまな業種の専門の方がいらっしやいます。そういう方々が、どう

MISSION

東洋のアルカディアを子どもたちへ
私たちは、この地に住む人、働く人、訪れる人とともに、精神的にも経済的にも幸福度の高い地域をつくりあげ、次世代につないでいく。

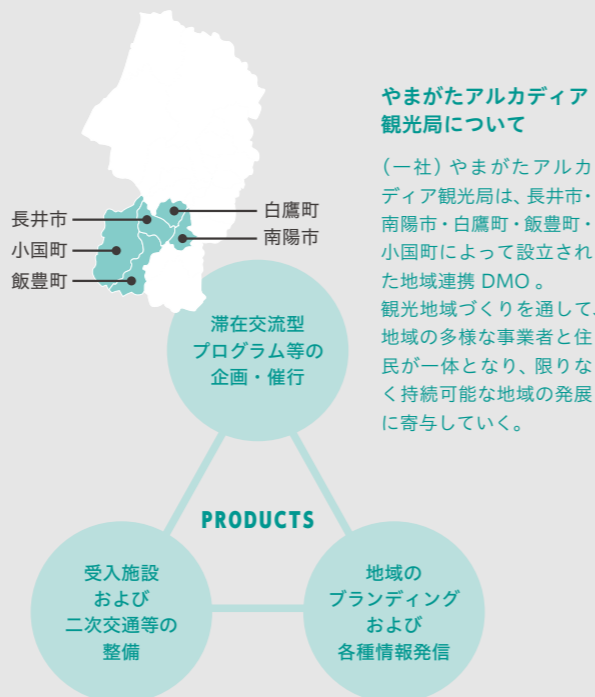
VISION

日本最強のローカル

豊かな風土、持続可能なコミュニティ、
いつでも帰れる、みんなを迎えられる心のふるさとやまがた
緑や花に囲まれた、美しい里山風景。人々が行き交い、まちは住まう人の笑顔に包まれ、活気に満ち溢れている。
住む人、働く人、訪れる人は、「東洋のアルカディア」と呼ばれるこの地に想いを馳せる。
この地に暮らすことを誇り、100年、はるか先まで続く「日本最強のローカル」を目指す。

BRAND CONCEPT

やまがたアルカディア～新たな自分に出逢える郷山～



PROFILE

渡邊拓磨(わたなべ・たくま) 小国町出身。「農事組合法人 小国きんたけ工房」代表理事。商工会、農協青年部等の役職につき、同世代がつながり連携していく流れをつくっている。キノコについての知識、情熱、愛情は並外れていて、菌床の元となるチップにもこだわっている。

いう風に小国町を感じるか、すごく知りたいです。マイナス面もどんどん言ってもらおうと、こちらができることが増えていくいい機会になりますよね。情報交換にはすごく期待しています。アルカディア地域は、現在は2市3町ですが、せっかくの置賜3市5町、8地区がすべてまとまれば、どんどん面白いことができるはず。例えば、小国町では2年前からアワビを養殖していますが、うちのシイタケを食べて育っているんです。小国のいちごやトマトも食べています。地区ごとに特産品を食べて育った鮑が8種類あって、それがおいしかったら最高じゃないですか？

INFORMATION

見る・触れる・体験する！

やまがたアルカディア観光局では、置賜地方の豊かな風土と奥深い文化が感じられる、滞在交流型旅行商品を企画・提案しています。「東洋のアルカディア」を体験できる様々なプランをぜひご利用ください。



詳しくは
ツアーHPを
ご覧ください。



一般社団法人やまがたアルカディア観光局
〒993-0003 山形県長井市東町2番50号
TEL.0238-88-1831 FAX.0238-88-1812
<https://arcadia-kanko.jp/>



公式HP



facebook



Instagram

地域に息づく文化を感じる

小国町の観光・宿泊施設

Sightseeing and accommodation in OGUNI TOWN

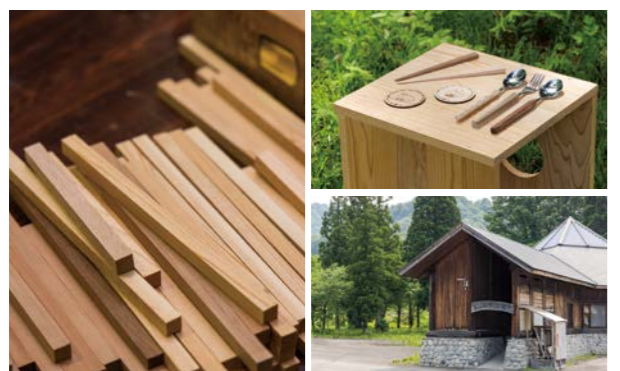
新潟、福島の間にある小国町は、置賜地域の中でも違った空気感を感じることができます。気分転換できる小旅行にぴったりの、小国町の自然や文化を満喫できる観光・宿泊施設をご紹介します。

臨時休業中や営業時間変更の場合があります。お出かけの際は各店舗にお問い合わせください。



森林の中で静かなひととき
白い森交流センターりふれ
野外能舞台やオートキャンプ場がある宿泊交流施設。朝日連峰の山々を見ながら、山で採れた薬草のお風呂に浸かり、ゆつたりと心身を癒すことができます。夕食には鴨鍋(冬季限定)や新鮮な山菜がたっぷり入った熊鍋(要予約)のほか、岩魚の塩焼きや刺身、米沢牛、地区に伝わる郷土料理から着想した「りふれ餅」も。小国町の魅力をいっぱいに感じられる場所です。

〒999-1452 山形県西置賜郡小国町五味沢513
Tel/0238-67-2011 Fax/0238-67-2013 営業時間/宿泊 16:00～10:00、休憩(お部屋利用) 10:30～15:00、日帰り入浴 10:00～19:00
定休日/なし <http://siroimori.co.jp/rihure/index.html>



緑に囲まれて木工体験
白い森木工館
古くから木地づくりが行われてきた、小国町五味沢地区。朝日連峰南麓にある「白い森木工館」では、クルミ、ナラ、サクラなどの端材を使用した木工体験ができます。マイ箸作りは、カンナで削り出しヤスリを丁寧にかければ30分ほどで完成。その他、スプーンやフォークを自分好みに削り出す体験や、森の動物たちの姿をレーザー加工で描いたコースター作りも。1週間前までの予約制です。

〒999-1452 山形県西置賜郡小国町五味沢513 Tel/0238-67-2830
営業時間/火・木・土 9:00～17:00
定休日/月・水・金・日曜、不定休あり ※要予約
<http://siroimori.co.jp/mokkoukan/index.html>



豪快な岩魚の天ざる
越後屋
小玉川地区で11代続くマタギの家系、本間さんが営む民宿とお食事処の「越後屋」。岩魚一匹を丸ごと揚げた天ざる、熊そば、岩魚の寒風干しや、るいべなど小国ならではの味覚を楽しむことができます。デザートには、冷凍した柿の器にクルミとあんこを入れた「熊のおやつ」も。店内には毛皮で作った腰当てなどマタギ関連の商品が展示してあり、購入可能です。

〒999-1522 山形県西置賜郡小国町小玉川456 Tel/0238-64-2430
営業時間/食事処 11:00～16:00 定休日/年中無休
http://geo.d51498.com/etigoya_kuma/index.html



新鮮な山菜と地鶏、マタギ宿
民宿 奥川入
小玉川地区の中でも奥まった場所であり、もともと山に近い民宿。水田の向こうに雄大な飯豊連峰が見える、絶好のロケーションです。農業と養鶏を営みながらマタギをしている横山さん親子から狩りの話を聞き、採れたてのワラビを使った山菜料理や、新鮮な地鶏料理をいただくのがこのお宿の楽しみ方。お好みに応じて洋食も可能で、連泊もおすすです。

〒999-1522 山形県西置賜郡小国町大字小玉川576
Tel/0238-64-2263 定休日/年中無休



口溶け滑らかな、かき氷
美森マルシエ
地元で採れた野菜・山菜を多くの人に届けたいという思いから生まれたお店。地鶏や短角牛など小国産の食材以外にも、全国から集めたおいしい商品が並びます。トマトソースから手づくりしたピザ(週末限定)などの軽食もあり。牛乳を凍らせて削り出した「ふわ雪かき氷」は夏の人気メニュー。期間限定のスモモや自家製ジンジャーシロップはなくなり次第終了。

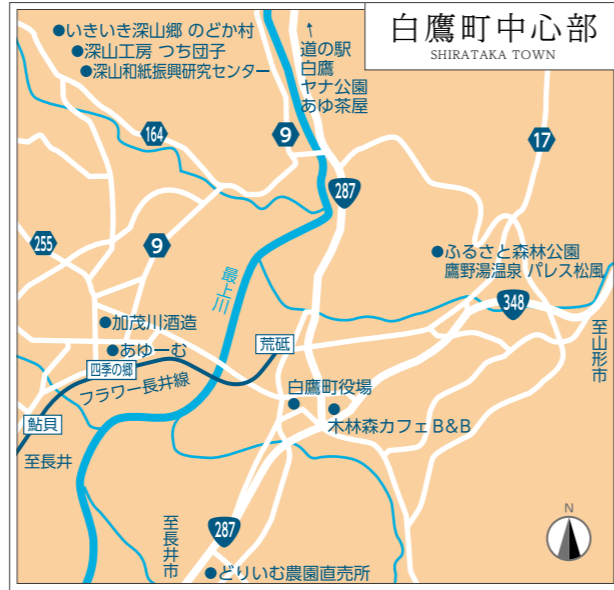
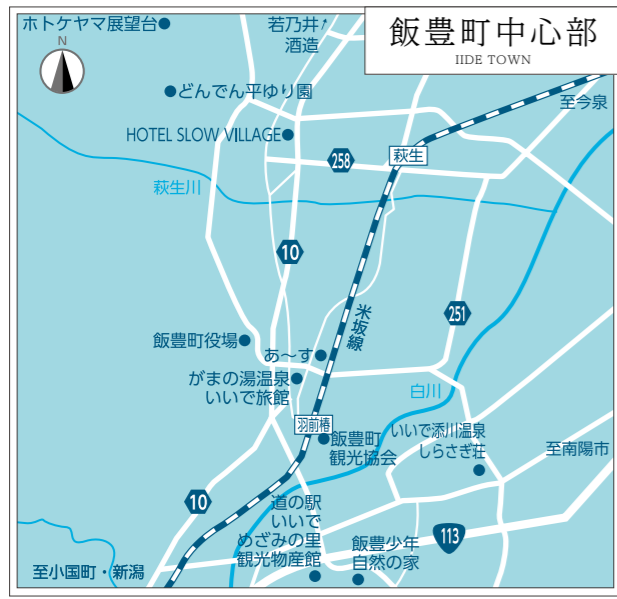
〒999-1332 山形県西置賜郡小国町町原45-1
Tel/0238-62-3689
営業時間/9:00～18:00 冬季休業 定休日/月・火・水曜



山里の技と伝統、つる細工
森のめぐみ直売所
農家の冬仕事として続く伝統のつる細工。山ぶどうのつるを細かく編んでつくる籠バッグは素朴で、大量生産のものとはまったく違う存在感があります。ここで購入したバッグは有料で修繕も可能。長く愛せる一品が見つかるといいですね。小国町森林組合による直売所で、つる細工のほか、山菜やキノコも販売して、季節の山の幸を手に入れることができます。

〒999-1332 山形県西置賜郡小国町町原45-1 Tel/0238-65-2158
営業時間/9:00～16:00
定休日/冬季休業(12月上旬～4月上旬)

市街地エリアMAP



arcadia
photo
map

arcadia 季刊誌アルカディア

#08 2021年8月発行(年4回発行)

発行/一般社団法人やまがたアルカディア観光局
 編集/株式会社やまがたアルカディア編集社
 写真/船山 裕紀
 文章/上林 晃子
 デザイン/坂井理枝子



next #09
AUTUMN issue
 特集1_草木塔
 特集2_鶴の恩返し

1 表紙: 小国町綱木箱口
 森のめぐみ直売所にて
 撮影 date: 2021年6月
 21日 午後13時頃



2 P02-03: 小国町黒沢
 黒沢峠にて
 撮影 date: 2021年5月
 31日 午前9時20分頃



3 P05: 飯豊町手ノ子
 宇津峠にて
 撮影 date: 2019年8月
 19日 午前7時頃



4 P06: 小国町黒沢
 黒沢峠にて
 撮影 date: 2021年5月
 31日 午前10時頃



5 P08: 小国町小玉川
 越後屋にて
 撮影 date: 2021年5月
 31日 午後1時15分頃



6 P12-13: 小国町大宮
 大宮子易両神社にて
 撮影 date: 2021年5月
 17日 午後4時40分頃



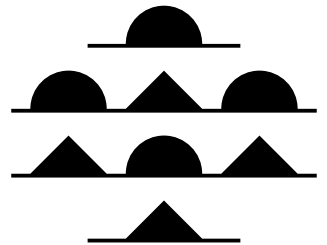
7 P14: 小国町樽口
 樽口神社にて
 撮影 date: 2021年6月
 24日 午前10時45分頃



8 表紙: 小国町黒沢
 黒沢峠にて
 撮影 date: 2021年5月
 31日 午前9時40分頃



本誌に掲載されている
 写真の場所に行ってみませんか?
 そしてすこしの間だけスマホをしまっ
 てイザベラ・バードが感じた
 美しい風景を眺めてみてください。



やまがた
アルカディア
観光局

YAMAGATA
ALCANTARA
TOURISM BUREAU